『山科御坊事並其時代之事』と題する書は大谷大學所藏で、大正六年越前永臨寺(香月院師所住)所藏本より寫したもので、永臨寺本の奥書に「文化八年辛未歳十二月十二日晝後ヨリ十三日夜閑筆、一字一點無相違本之儘寫取者也」とあり、表紙脇に「本紙寸法竪四寸五分横五寸五分カミハ半紙トミユ筆者丹山書之」とありて、有名なる一切經校合の丹山師の事であれば、最も信ずべき寫本といふべきである。大學本は孫寫しで、往々不明の文字を見出すが、多少原本のおもかげを存して、其が實悟師の直筆でありたであらふと思はれる。本紙表題の下に「苾蒭兼俊」と署名し、内容は初に條々目錄あり、次に四十八箇條を擧げて、左の奥書あり。

右此條々者御所望により思出るにしたがひて注(進)遣ずる也、一句一言も虚言は有べからず候。但外見は大には〻かり努々他見あるべからず。炎天の術なくねふりの間すぢなき事しるし進候。やがて可被入火者也

天正參年乙亥林鐘上旬日　　苾蒭兼俊　八十四歳

（花押）書之

願入寺江

次に三十一箇條を附記して、終に奥書なし。此分は實悟師の手扣であつたものか。内容は儀式作法などに關する事が主で、『本願寺作法次第』(假名聖教の實悟記)と甚だ似たものである。年代からいへば、『作法次第』は天正八年であるから、此方が五年前の執筆で、恐らく願入寺の請によりて此書を編せられたのが因となりて、後年に『作法次第』を作られたのであらふ。

『山科御坊事並其時代事』條々目錄　作法次第對照

作法次第		新番號	作法次第		新番號
一	山科御坊事阿彌陀堂事及御影堂事	四七三	一七	毎月五日勤ノ事	五〇〇
二	阿彌陀堂勤行着座事、御影堂同斷、早引ノ事	五〇五	一八	前住御佛事ノ時南殿亭勤ノ事	五〇四
三	御影堂勤行御指合ノ時ノ事	五〇六	一九	蓮如ノ時御兩親命日勤ニツキ實如物語ノ事	四九八
四	御影堂ニテ早引勤行事	四九六	二〇	實如ノ時南殿庭ノ持物堂ノ事	五〇一
五	早引後ノ短念佛早引調聲ノ事	五三三	二一	念佛行道堂ノ事	五〇六
六	昔ハ正信偈舌々稀ナリシ事	五二一	二二	大阪持佛堂敬信閑ノ事	五〇二
七	昔ハ禮讃アリ、和讃ハ近年ノ事、知恩講式兩師講式事	五一九	二三	日沒勤行八時ニアル事	六七
八	和讃念佛口傳事	五二四	二四	太夜モ早ク八時ニアル事	五一一
九	六人ノ供僧事	一	二五	日中勤行齋前ニアル事	五一三
一〇	鑰取ノ事	五九〇	二六	報恩講齋非時ノ事	五一二
一一	衣ノ色濃畫ノ事	二	二七	報恩講中ニ改悔ノ樣ノ事	六一六
一二	御影堂百返念佛阿彌陀堂短念佛ノ事	五九七	二八	報恩講中ニ改悔ノ樣ノ事	六一七
一三	勤ノ上ノ御法談ノ事	六三	二九	報恩講ノ勤行私記ノ事	六一九
一四	法敬坊慶聞坊法專坊讃嘆ノ事	五五一	三〇	報恩講二十七日夜ノ事	六二〇
一五	法義アル人殊ニ遠國衆座上ノ事	六四七	三一	近年講中ノ安心申樣ノ事	六二一
一六	毎月二十五日勤ノ事	一〇一	三二	近年人々振舞古ニカハル事	六二四
		六四六			
		四九九			

	作法次第	新番號
三三 京ニテ人々沙汰申ス三ケ條事	一六九	六三五
三四 オホカメ念佛ノ事		六二七
三五 時ノ太鼓山科兩所ニアリシ事	八一	五二四
三六 番屋口々ノ壁書ノ事	一七	五二五
三七 寺内及外ヘ御出ノ時精進ノ事	二	五四三
三八 御住持御兩親正忌精進ノ事		五五〇
三九 蓮祐尼年忌法事ニ付實如御感ノ事	—	
四〇 古ニカハリ經論聖教ヨム人ナキ事	九一	六二三

以上願入寺へ注し遣す條々

	作法次第	新番號
四九 長祿元年存如御遷化時ノ事		四二七
五〇 霜月二十八日出魚物事	二八	五五五
五一 實如私記遊シテ御歸候時ノ事	九四	五〇八
五二 式問念佛出ス人ノ事		五〇九
五三 裳付衣衣紋ノ事		五九八
五四 勤フシハカセ實如ヘ御意得ル事	—	
五五 佛前道具等得御意事	—	
五六 報恩講一七日可得御意事	—	
五七 押板ノ上ニ打置ナカレヌ事	九八	四八一
五八 新坊ニテ初日勤行ノ事、早引私記ノ事		五六七
五九 知恩講式兩師講式不被讀事		五六八
六〇 昔ハ六時禮讃ヲ申タル事	一五八	五一六
六一 巧如年忌ニ法事讃被行タル事		五一〇
六二 末々一家衆袈裟着用ノ事		五九九
六三 末々一家衆羅着用ノ事	三〇	六〇七
六四 一家衆上洛ノ時禮ノ事	二七	五六一
六五 一家衆上洛時御相伴供御ノ事		五七四
六六 一家衆御相伴ノ事		五七五
四一 野村御坊ニテ一家衆御扶持ノ事		五七七
四二 野村ニテ座敷以下便利ニ使用出來シ事	一五〇	五七八
四三 勤行齋ニ扇使用ノ事	八八	六〇六
四四 太子講式念佛行道堂ノ事	五六	五〇一
四五 御堂衆内儀ノ佛法ニツキテノ事		六五四
四六 不審ヲ御堂衆ニ問ヘトノ仰事	期一四七	六五一
四七 御堂衆奉公心得ノ事		六五三
四八 蓮師曉毎ニ召物改メラルヽ事	二三七	六三五

	作法次第	新番號
六七 一家衆ノ子供上洛得度ノ事並御禮事	一八	五六二三
六八 蓮師御壽像及御禮ノ事		五八〇
六九 蓮師新衣御着用ノ時ノ事	一七三	六二三
七〇 永正三年ヨリ當宗人具足カケ始ル事		六六九
七一 常樂寺三代マデ阿彌陀堂勤行不被申事		五四〇
七二 永正三年政元河内衆陣立タノム事、大阪一亂事	四五八	四五八
七三 實賢堺坊舉被申事堅田坊ノ事		四五九
七四 久寶寺坊ノ事實孝ノ事		四六〇
七五 蓮師少ノ御誤ナモ御爲ト被思召事	仰二〇〇	六三六
七六 勤念佛六返カヘシノ事		五一七
七七 勤念佛四返カヘシノ事	一五三	五一八
七八 葬禮ノ時念佛ノ事		五三五
七九 持佛堂何方ニモ可有之事		五〇三

此表の示す如く『作法次第』と重複の條は三十一箇條で外に二箇條『仰條々』や『御一期記』と重複するから、殘り四十六箇條が新條なり。なほ『作法次第』と比較するに、同し趣意の條にても、その語氣の稍異なる所ありて、『作法次第』には御局へ進呈する爲に多少修正せられた跡が見える。

追記。最近に足利瑩含師の好意により、堺眞宗寺の所藏本を見るを得たるに、大學本と配字丁數等全く同じきことを發見し、此に力を得て、古橋願得寺に至り、同樣の本若し存せすやと質せしに、偏くその寶庫を探りて、遂に一本を獲て示された。此を以て大學本と對照したるに、其が實に諸寫本の原本たることを發見した。此原本を仔細に驗するに、或る處は實悟師の眞筆なる事は『作法次第』と對照して明了なれど、或る處は文字優麗なれど古雅ならず、果して實悟師の筆なるか、稍々疑はしく思はれて、諸友の鑑査を煩し、熟察を遂げたるに、用筆の差異より此相違を生じたるにて全部實悟師の眞筆なりと決した。卷頭の圖版參照。而して丹山師の手記なる此書の寸法「縱四寸五分」とあるは、八寸五分の誤寫なる事も知れた。

十六。實悟贈越前三尼公百箇條

此百箇條は先啓師の實悟記拾遺に拔萃を掲げてあるもので、その全文を見たしと思ひ居りしに禿氏師の好意によりて龍谷大學所藏本を借覽するを得た。先づ始に左の緒言あり。

蓮如上人御勸化ノヒトトホリ又ハ御心中ノオモムキイトコマカニ御タヅネ候、殊勝ノ御コトニテ候。ワレモ御子トハムマレタレドモ、上人ノ御心ネハ存ゼズ候。サアリナガラ、忘念忘執ノコト、ロノオコラントキハ、イヨ〳〵南無阿彌陀佛〳〵トトナフベシ、トノ御オシヘニテマシマスユヘニ、念佛シテ井ルバカリニテ候。シカシナガラ御モノガタリ等ノオモムキライサヽカシルシオキ候。オノ〳〵フカキ御ノゾミユヘ、ヤムコトヲエズシテスナハチウツシテクダスナリ。ヨク〳〵コヽロヲシヅメテネンゴロニ御覽ズベシ。

次に本文百一箇條を擧げてある。その標目は左の通り。坊刊本御一代記聞書、蓮如上人御法談及び本願寺作法次第（實悟記）に對照したる條數を下に擧ぐ。

一 歸命ト發願回向トノコヽロ　聞 五
二 信後相續ノコヽロ　談 六七
三 信心ハ佛智ナリ　談 六九
四 念佛往生ハ臨終ノ善惡ヲ沙汰セズ　—
五 我執ヲサキトシテ同行相論スル事　—
六 我心中ヲアリノマヽニウチ出スベキ事　—
七 機ヲモチアツカフコトハ他力ニ入ル下地ナリ　—
八 佛恩ヲ嗜ムトイフ事　聞 一八五
九 念佛ノ自力他力ノ事　—
一〇 佛法ニハマイラセ心ヲロシ　聞 二五
一一 佛法ニハ兎角クダサレ心ヲモツベシ　—
一二 雨フリ炎天ナド勤短クセヨトノ事　聞 三二
一三 坊主分ノ不心得ノ事　聞 二六六 二七七
一四 宿善アリガタシト申セ　聞 一九五
一五 宿善　自他宗ノ違アル事　聞 一九六
一六 同行知識ヲソシルコト大ナル誤ナリ　—
一七 同行ヲカタ〳〵ト云ハ平外ナリ　聞 二八
一八 門徒ヲアシク申スマジキ事　聞 二五〇

一九 モチカヘコヽロハ機ノ上ニコシラヘル往生ナリ　—
二〇 生付ノ心中ヲ一ヅヽナチサント思ハ漸教ナリ　—
二一 ソノトキ〳〵ニヨロコベ　—
二二 空善云佛法ヲスカヌ故ニ嗜マズト　聞 二九
二三 會合ノトキイロ〳〵名目ヲツカヒテ連歌カホニナル事　—
二四 聖人ノ御影ヲ申スハ大事ノコトナリ　聞 九一
二五 彌陀ノ光明ハヌレタルモノヲ下ヨリホスガ如シ　聞 一七三
二六 同行知識ヲソシルハ言語路絶ナリ　—
二七 德大寺唯蓮坊攝取不捨ノコトハリヲ知ル事　聞 一七一
二八 領解ハ佛ノ方ニアリヤ行者ノ方ニアルカ　—
二九 信ヲトレバ自身ノ勝德ナリ　聞 九七
三〇 死ヌル者ハアリテモ信ズル者ハ少シ　聞 二四一
三一 行サキバカリ見テ足モトヲ見ネバフミカブルナリ　談 四〇
三二 少シ心掛アルモノヽ違ガ大ナル違ナリ　聞 七四
三三 西國ノ人安心ノトホリ申サレタル時ノ仰　聞 一五二
三四 言ダケニテハ信決定ノ人ニマギレテ痛マシ　聞 二五三
三五 水スナハチ火ナリトハ聊モ人思フマジ　—
三六 懈怠スルトキ往生スマジキカノ疑ノ事　談 七六
三七 信ヲ取ントモハヾ身ヲステヽトルベシ　—
三八 一念發起ノ所ニテ罪消ヘテニ付不審ノ事　聞 二五
三九 蓮師ハ親不孝ノ者ヲ第一御キラヒノ事　作 一七一
四〇 詮ナキ事ヲ思フヨリハ佛恩ヲ思ヘ　—
四一 惡人ヨリハ信決定ノ人ノマネヲセヨ　聞 二五六
四二 幼者ハマヅ物ヲヨメ復セヨ義理ヲワキマヘヨトノ仰　聞 一七八
四三 蓮師法義アル人ヲ御目カケラルヽ事　作 二九
四四 談合ノ時口ト心ト不相應ナル事　—
四五 我心ネハシルヽモ恩德ハシラレヌモノナリ　—
四六 思ヒタルト大ニ違フハ極樂ナリ　聞 二〇七
四七 信心ト云コトヲ別事ノヤウニ人思ヘリ　—
四八 坊主ヲガ身ヲ勸化セヌハアサマシ　聞 二三八
四九 坊主ハ大罪人ナリ　聞 二四四
五〇 我コヽロニマカセテハアヤマリ多シ　—
五一 方便ヲワロシト云ハアルマジキナリ　聞 一四八
五二 機ニ引テ往生ヲ定メルハ自力ナリ　—
五三 世間佛法トモニカロ〳〵シタルガヨシ　聞 二六五
五四 佛法ト世體トハタシナミニヨル　聞 二六六
五五 稱名ノ外ニ往生ヲ求メント思フハ誤ナリ　—
五六 法敬ト我トハ兄弟ヨトノ仰　聞 二四六
五七 信決定セヌハ聖人ノ御尉ヲカウムリタルナリ　—
五八 如來ヲタノムト信決定ノコヽロト別ナリト人思ヘリ　—

五九　御タスケ有タリト云ハサトリノ方ニテワロシ　聞一七〇
六〇　機チアキマヘズ手ビロニ法チ勸ムルハ誤ナリ　—
六一　愛欲ノ廣海ニ沈沒シノ文ニ付テノ沙汰　聞三〇
六二　門徒心得チナホストキヽテ老ノ皺チノブトノ仰　聞九九
六三　信チトル外ハ何事チ聞テモ御意ニ不叶事　聞一五七
六四　酒ナド被下テ後佛法チ御キカセノ事　聞一七五
六五　堺ニテ人々ニ御文チヨミキカセラルヽ事　聞二三六
六六　サンバニテ御文ニツキ御遺言ノ事　聞二五七
六七　御一生ノ間御沙汰ノ事ミナ佛法ナリ　聞二〇四
六八　御病中ノ仰ミナ金言ナリ　聞二〇五
六九　人ノ信ナキ事バカリハ思召ノ如クナラズ　聞二三七
七〇　兄弟中信ナキ事バカリハ心ノコリナリ　聞一七四
七一　功成身退ハ天ノ道ナリ　聞二三八
七二　御足ノワラヂクイノ跡御見セノ事　聞二五五
七三　佛法再興セントノ御念力ニテ今如此トノ御述懷　聞三三
七四　信心定マレバコソ今定マル往生ナリ　—
七五　往生ニ疑起レバコソ往生一定ト喜バレルナリ　—
七六　機チ辨ヘズ安心チ聊爾ニ沙汰スルハワロシ　—
七七　御流ハ易行易修ノ道理チ御勸化ナリ　—
七八　當流ノ安心ト申ス事　—
七九　坊主ハ人ニ惡マルヽ性ナリ　—
八〇　法文ハ上ニチイテ我ハ上ムイテ聞ケ　—
八一　人チヨロコバセント思ヨリハ先ヅ我ヨロコブベシ　—
八二　佛法聽聞ニ行儀作法ハ不用ナリ　—
八三　無紋ノモノ着ルコト御キラヒナリ　聞一四一
八四　坊主心得ナチリタルチ一層御喜ビノ事　談三三
八五　安心ノ一通リチサツト小短ク語リタルガヨシ　—
八六　法義チ麁相ニ聞クコトナカレ　—
八七　法ニハ荒目ナルガワロシ　聞二一〇
八八　門徒ト坊主トノ關係　—
八九　ヨロヅ御迷惑ノ事　聞二三
九〇　來ルベキ者ノ來ヌハ心元ナキモノナリ　—
九一　無信ノ人ハ外儀チカザル故ニソノマヽ知ルヽナリ　—
九二　嗜ミト云事　—
九三　後生大事ト存ズベキ事　聞二九
九四　老ハテヽ知ラヌモノハ恩德ナリ　—
九五　佛法チ澤山ニキケバ我モノシリ貌ニナルナリ　—
九六　今生ノ事ホド佛法チ心ニ入タキト云事　聞三七
九七　法儀ノ事一度ソコナヘバ萬劫ニモナヲラズ　—
九八　水ハヒクキニツキ火ハカハケルニツク　—
九九　タフトム人ヨリタフトガル人ゾタフトシ　聞三二
一〇〇　我コソイタヅラ者ト思フモノナシ　—

最後に左の奥書あり。

右百ケ條ハ各フカキ望ニヨリテウツシテクダスナリ。コノオモムキチモテ往生ノ體トユメユメシタマフマジク候。タヾ往生ノ體ハ南無阿彌陀佛トキコエ申シテ候。アナカシコ〳〵

天正八年二月二日　實悟　御印

エチゼン三尼公中江

然るに此書の第十三條に「小歌三味線」の語あるに禿氏師は注目して「小歌に合せて三味線を彈くこと慶長以來の習俗」なるに「天正八年に成れる法語集に記せらるゝことは錯誤あるに似たり」況んや蓮如上人の語とするに於てをや」といふて居られるが、この不審の如く他にも氣付くことがある。第九十條に「御簾中」の語があるが、是も此時代に似合しからず、實悟師は『作法次第』なぞに「女中御方」なぞの語を用ゐて居られる。第二十七條攝取不捨のことはりを知りた人を「德大寺の唯蓮坊」としてあるが、此名は坊刊本及び其系統をひいた法要本に見る所で、他本では「有人（瞻西上人ノコトナリ）」とあり、實悟師は『仰條々連々聞書』第四十一條に雲居寺の瞻西上人」と明記して居られる。其他本書に特有にして他本に類條なき條々は、文言概ね冗長で所謂說教者の口吻に似てあり、蓮如上人の御法語と思はれぬものが多い。それで私は此書を僞作と認める。即ち其當時にありた坊刊本の御一代記聞

一〇一　善知識ノ言チオロソカニ存ズル歎キニツキテ　聞九三

書や蓮如上人御法談や實語記やなどから五十六箇條を拔き來り、之に自作の四十五箇條を加へたものである。此考を以て此書の緒言なり奥書なりを讀むと、益〻怪しと思ふ氣分が起る。實悟師の奥書には大概年齡の記入がある、又こゝに「御印」とあるも怪しい。此書といひ、『連署記』といひ、『眞宗法要』が編纂せられた頃までは、此樣な大膽なる行爲が流行したものと思はれる。同時にまた何もかも鵜呑みに信用する人々があつたのも面白き現象である。

十七。先啓師所見の諸記錄の考察

以上所述にて現今見聞する諸本の考察は一先づ終りた。然るに先啓師の『實悟記拾遺』や『蓮如上人緣起』には、以上記述以外の書名がまだ多く擧げてあるから、一應之を考察してみる。兩書の記載に多少の差違があるが、對照してみると左の通り。

『緣　起』所　揭	『拾　遺』所　揭
一。蓮淳口授實悟記二卷天正三年八月撰	實悟贈佐榮公十六箇條
二。空善口授實悟記一卷百三十八箇條有同題別本	空善記及山科連署記三卷刊本
三。連々聞書天正二年十一月實悟記	天正二甲戌十一月記
四。贈三尼公百箇條一卷天正八年二月二日同師記	實悟贈三尼公百箇條
五。折々物語一卷八十七箇條同師記	常々御物語之趣一卷八十七箇條
六。御持言二卷二百八十四箇條同師記	御自言百八十四箇條
七。水籠二卷百九十六箇條同師記	水籠二卷百九十六箇條
八。御自言三卷百八十九箇條同師記	御自言三卷
九。御物語百十三箇條天正八年記有同題別本五十四箇條	御物語一卷刊本
十。本願寺作法次第四卷六十四條天正八年三月同師記	實悟記四卷
十一。御一代聞書四卷二百四十九箇條天正十三年同師記	御一代記四卷刊本
十二。實悟記二卷二百二十三箇條	實悟記二百二十三箇條
十三。實悟記二卷百八十二箇條天正八年九月記	實悟記二卷百八十九箇條
十四。實悟記上卷四十一箇條	實悟記上卷四十一箇條

之より一々につき所見を略說すれば、

(一)蓮淳口授實悟記二卷天正三年八月撰と『緣起』にあるは、『拾遺』に拔萃が擧げてあるから、前の第三項に述べた慧空師の所謂天正三年記であることが分かる。蓮淳師の手に成つた『蓮如上人御若年砌之事』十箇條の後に『順如上人願成就院殿事並應仁亂』二箇條と『加賀一亂並安藝法眼事』三箇條とを實悟師が加へて終に左の奥書がある。

右條々愚老承傳ル分注シ付ル處、御所望ノ間、惡筆トイヒ文トイヒ旁以雖憚入、不存隔心筋目迄令進者也、可被外見止者也可笑々々

天正三（稱蒙人定）金商稍秋初十日　　茲翁兼俊（順毛有餘）在判

佐榮大僧都御房參

「佐榮公ハ實悟ノ舍兄敎行寺蓮藝孫實誓ノ嫡男也」と先啓師は附記せられた。

(二)（空善口授）實悟記一卷（百三十八箇條有同題別本）とあるは、多少條數の相違あれど、『空善日記』の事なるべく、『拾遺』にはまた刊本『山科連署記』三卷を加へてある。禿氏師は空善日記に「一名物語口決鈔」と傍注せられたが、この書名は『拾遺』の數部撮要の標下にありて、其拔萃より見ると『山料連署記』に似てあると思ふ。

(三)連々聞書二卷（天正二年十一月實悟記）は實悟師眞筆の『仰條々連々聞書』奥書の日附と符合し、慧空師の所謂天正二年記に相當するが、『拾遺』の拔萃では遺漏が甚だ多い。果して完本の寫であるか疑はしい。條數の記載がないから完本と較べられぬ。

(四)百箇條（贈越前三尼公。天正八年二月二日同師記）是は第十六項に述べた僞作本である。

(九)御物語（百十三箇條、天正八年記。有同題別本、五十四箇條。同師記）は『拾遺』の刊本御物語に當るもので、正德三年刊行の『蓮如上人御法談』と同一の條數である。現存繪入の『御物語』は條々を合した爲に百六箇條となりてある。是は明に『御一期記』の拔萃であるが、蓮師の異母弟應玄師の生涯を叙した一條は新附加である。

(十)本願寺作法次第四卷（六十四箇條、天正八年三月同師記）は、此時既に『實悟記』といふ名を冠して刊行せられし物と見えて、其が法要本の底本となりたのであらふ。但し條數が六十四箇條とあるのは不審、何かの錯誤ではないか、眞本の百七十三箇條あるに對して餘りの相違である。因みに、法要本の奥書には「行事以下」の次ぎに「諸事奉相候之間不忘申次第連々書付」の一行十六字を誤脫せり。

(十一)御一代聞書四卷（二百四十九箇條、天正十三年同師記）は坊刊本の奥書と條數が一致する。

(十二)實悟記二卷（百八十二箇條、天正八年九月記）の日附は『御一期記』の奥書と一致する。『拾遺』には百八十九箇條とあり、拔萃が二十三箇條擧げてあるが、その二十二箇條までが『御一期記』にありて、二首の御歌の條だけが他よりの竄入である。是は(九)『御物語』よりはやゝ詳密なる拔萃と思はれる。

(十三)實悟記上卷四十一箇條。『拾遺』に六箇條拔萃してあるが、悉く『御一期記』にあるから、是もその殘闕本か拔萃本である。

(十三)實悟記二卷（二百二十箇條）不明ではあるが、その名や條數から推すると、是が完全なる『御一期記』寫本であるかも知れぬ。禿氏師は十三號と十四號とを合すれば、條數がこの十二號と一致することを指摘せられた。

(五)折々物語一卷（八十七箇條同師記）『拾遺』の常々御物語之趣一卷と條數が同一であるが、數部撮要と標して拔萃してある所に折々物語とあるのと同一か不明である。拔萃として、紀州御下向の時の歌、山科にて井戸を御堀りの事、御寢の呼吸稱名となる事、御文一通なぞが擧げてあるが此等の條々が折々物語所載のものとするならば、隨分亂雜なる集錄といふべきである。

(六)御持言二卷（二百八十四箇條、同師記）(八)御自言三卷（百八十九箇條、同師記）此兩書は同じ表題の樣に見えるが、『拾遺』には御自言（百八十四箇條）御自言三卷と二書を擧げてあるのと同異判然せぬ。數部撮要と標する下に、百八十四

箇條本の拔萃が含まれてある筈であるが、十一項に述べた所謂『實悟舊記』の拔萃と思はれるものがあるから、或は之と內容の似たものと思はれる。

之を要するに、「實悟記拾遺」上下二卷に拔萃してある條々の數は隨分多いが、大部分は現存諸本に見出すもので、未見のものとては僅に四五箇條を出でぬと思ふ。其とても餘り肝要ならぬ斷片のみであるから、此項の始に列擧した書目中、既に散佚して現に見難きものがありても、蓮師の御法語を集成するのに大なる遺憾はない事と思はる。

顯誓師の『今古獨語』に「內內エラビ奉ル蓮如上人ノ御法語九卷ニオヨビ侍ルヲ八册ニツヾメ奉ル」とありて、顯誓師も蓮師の御法語を蒐錄し、而も九卷の大部となりてあるが、現存の諸錄中にそれと思はるゝものを見出さぬば不思議である。御一代記聞書の一部、自分が假りに『昔物語記』と名ける、二十五箇條は集錄者不明であるが、或は顯誓師に關係あるかも知れぬが、それにしても餘りに少分である。『獨語』の末文に火事に遭はれた事が載つてあるが、或はその全部燒失したのかも判らぬ。兎に角其の傳らぬは遺憾である。

十八。現存諸錄の構成摘要

蓮如上人御法語の集錄は甚だ數多けれど、上述諸項に於て分解を試みた結果として存外少數の記錄に歸結すべきもので、其が種々の配合を以て集錄せられた爲に多數の書となりた事は明である。それで成るべく浩瀚な集錄二三を選び取れば、其中に殆ど全分の法語が含まれることになる。『眞宗法要』の編纂は明和二年に大成し、『實悟記拾遺』の出版より二年前であつて、その編纂者が先啓師の見られた諸書を悉く參考したか、固より不明であるが、兎に角に雜然たる諸記錄の中より『御一代記聞書』と『實悟記』との二部を選び出したのは、要を得たものといふべく、その烱眼を稱せねばならぬ。たゞその得たる底本の完全ならざりしを遺憾とする。此點では『假名聖教』は後に出來た丈に比較的勝りてあるといふべきである。

以上述べ來つた事を根據として現存諸錄の構造系統を摘記すると

一。空善記（伊）計百五十箇條

原本（又は最初の寫本）が三册に分れ、上册は五十箇條、中册は四十九箇條、下册は五十一箇條を收む（條數は開合の差によつて多少の異動がある）。中册四十九箇條が獨立して傳はる、假りに一册本空善日記（イ一）と稱する。下册の末二十五箇條も獨立して御往生記（イ二）としては傳はる。上下册が直に連續して行はる、假りに二册本空善日記（イ三）と稱する。是は當初より多分の修正が施されてある。刊本空善日記は萬延元年の出版で、上下二卷に分れ、百四十九條を含むが、大に修文せられたもので、且その第二條第三條及び第二十六條は特に附加せられたものである。

二。蓮淳記（呂）計十箇條

『蓮如上人御若年砌之事』と標し、終に實悟師の天正三年八月四日の日附があるから、慧空師は之

を天正三年記と名けられた。何時の頃よりか此と類似の記錄(ロ)があり、六箇條より成りしものに、蓮淳師が修文補足を施されたものと想はる。

三。蓮悟記

蓮悟師の記錄は種々ありたるべきが、一々明了でなく、僅に實悟師の記錄によりて其存在を想像する丈である。内四十箇條は蓮悟師昵近の人が一纒めとし『蓮如上人御物語次第』(ハ)と題して傳へられる。

四。實悟舊記　(イ)　計二百五十二箇條

表題は多分『蓮如上人御自言』とあつたであらうが、確言出來ぬ。享祿亂前の集錄である。了勝といふ人が百三十五箇條の抜萃(イ)を作りた。また或人も抜萃本を作り、七十九箇條づゝの上卷(二二)下卷(二三)の二册として傳はりし樣である。

五。實悟編『蓮如上人仰條々連々聞書』計二百七箇條

奥書に天正二年甲戌十一月三日書納之とあるから、天正二年記と稱せられる。眞筆本は願得寺に傳來する。明治四十三年京都西村護法館から出版した。此書の構造は、初七十九箇條は『實悟舊記』の抜萃上卷(二一)、次の十箇條は實悟師が加へられた新條内六箇條は蓮淳記の舊形(ロ)次の七十九箇條は『舊記』の抜萃下卷(二三)、終の三十五箇條はまた書き加への新條である。

六。實悟編『山科御坊事並其時代事』計七十九箇條

天正參年六月願入寺の請により主として作法故實なぞを記して贈られたもので、『本願寺作法次第』の作らるゝ基となつたものと想はれる。條數四十八箇條あり、之に三十一箇條書き加へられたが、他の集錄と重複するものは甚だ尠い。眞筆本は願得寺に傳來する。

七。實悟編『蓮如上人一期記』計二百二十五箇條

眞本は大谷派本山寶庫にあり。大正八年八月眞宗大谷大學佛教史學會から出版した。初に史傳の部九箇條は、實悟師の新に綴られたもので、次に御物語を註す由來の一條あり、次に擧げた四十箇條は『蓮如上人御物語次第』(ハ)により(内第四十四條は御物語次第になし)、次の六十箇條は二册本空善日記(イ三)により(其内御往生記(イ二)の部分を除き又第四十八條の前部第七十九條及び第九十八條を書き加へ)、次の四十九箇條は『實悟舊記』の抜萃下卷(二二)を用ゐ、次に八箇條を新加し、次の四十二箇條は(第百七十四條を除き)一册本空善日記(イ一)により、終の三十二箇條は空善日記下卷の御往生記(イ二)で、内四五箇條の新加がある。而して最後に天正八年九月中旬清書之と奥書がある。或人は之から百十三箇條(内一箇條新加)の抜萃を作りた。刊本の『蓮如上人御法談』及び『蓮如上人御物語』はこの抜萃本である。終の日附により普通に天正八年記と稱せられる。

八。實悟編『本願寺作法次第』計百七十三箇條

眞本は願得寺にあり。坊刊本『實悟記』四卷は是である。同樣の表題を以て眞宗法要や眞宗假名聖教に編入せられた。本書の中三十二箇條は『山科御坊事』の中にもある。

九。『蓮如上人御一代記聞書』計三百十六箇條

初の四十三箇條は一冊本空善日記(イ一)を寫し、内六箇條を闕き、次の二十五箇條は編者不詳の別の集錄であり、終の二百四十八箇條は正しく『實悟舊記』(波)に當り、内四箇條闕けてある。願得寺傳來本の奥書に天正十三年四月十九日書寫之者也とあるので、慧空師は之を天正十三年記と名けられた。假名聖敎に收めてあるのはこの願得寺本で、内題は蓮如上人御物語聞書とある。御一代記聞書なる名は恐らく町板四卷本に始まるもので、二百六十八箇條收めてある。法要本では此町板を底本とし、他本を以て多少の修正增補を施して、三百十四箇條となりてある。

一〇。『蓮如上人御物語次第』計九十五箇條

初四十一箇條は蓮悟記(ハ)の寫し、次の五十箇條は一冊本空善日記(イ一)で、次の三箇條は存覺師關係の條で、實悟舊記にある。最後の一條は新附加である。蓮如上人御物語次第なる名は初の四十一箇條だけに附すべきである。大正十三年龍谷大學出版の『蓮如上人法語集』に收めてある。

一一。『山科連署記』計百七箇條

初九箇條は史傳部で蓮淳記舊形(ロ)の前後に他の史傳を繼ぎ合したもので、第十條より終までは二冊本空善日記(イ三)を寫し、最後に御弟子達の連署及び日附を附加したものである。

一二。『蓮如上人之御自言』計三百二十三箇條

初の百三十五箇條は實悟舊記(仁)より了勝が拔萃したもので、之に御自言なる標題が付いて居たと想はれる。次の七箇條は出所不明。次の十四箇條は『御一期記』よりの拔萃、次の百十四箇條は再び實悟舊記より前拔萃に漏れた分を拾ひ擧げたもの。次の六箇條は蓮淳記の舊形(ロ)を寫し、次の御往生奇瑞十四箇條は諸本にある事實を記せるが、直接何より寫したか不明。終の三十箇條は新記錄で、最後の條を除きては、みなその出所を明記してあり、『蓮如上人法語集』に收めてある。

一三。實悟贈三尼公百箇條

實際は百一箇條ありて、内五十三箇條は御一代記聞書や法談や御實悟記より拔萃したもので、殘り四十六箇條は新附加であるが、多く御文や聞書の口調を眞似てある。

十九。日野一流系圖及び下間家系圖

蓮如上人御法語の集錄は前項の系統概說で粗、明了で、實悟師の手に成つたものが多數である計りでなく、同師前に出來たと思はれるものでも、みな一度は實悟師の眼に觸れたのである。香月院深勵師はその御一代記聞書の講錄に「蓮師ノ御公達デハ兼緣公、御弟子デハ空善房ノ記錄、ソレバカリデハナヒ、面授口決ノ御公達方御弟子方ノ記錄ノアルハ治定ナリ。アトニ御殘リナサレタ御長命ノ實悟尊老、不殘一處ニ集錄シテ、蓮如上人御一代記トナサレタノガ、古橋願得寺ニ傳ル實悟覺書ノ一部ノ聖敎ナリ」といふて居られるが誠に尤もな意見で、事情その通りと思はるゝが、たゞ其產物が御一代記聞書でなく、數部の集錄となつたのである。實悟師は實に蓮如上人の御法語を後代に

傳へた大功勞者である。同師にはまた『日野一流系圖但草案』の撰がありて、その眞筆本は現に古橋願得寺に傳來せられてある。其奥書に

不可外見內本也、次第不同等多之、
諸家系圖同前也、女子者皆次第妹可付也。
當家一門系圖雖不委、少々見合諸本注付之、
先年享祿之錯亂、既可紛失之處、予數卷依書
留、于今相殘畢、後見人猶以有誤處者可被加
筆者也、惡筆有憚、止外見而已。
天文十歲龍集辛丑孟秋天仲五日　權少僧都兼俊（花押）書之

とある。立智師は「本願寺通紀」編纂に此の寫本を用ゐられたものと見える。又龍谷大學圖書館に『下間系圖』一卷を藏し、其奥書を見るに、

本云右此系圖者、蓮位房以來之事、注置本無之、既可斷絕之處、予若年之比、求出古本、雖令書之、享祿錯亂悉爲紛失、然而不慮愚筆之本此比感得之間、書顯訖、尤於彼末葉者可有祕藏者哉。
天文廿年春花朝下八日　苾蒭兼俊在判

とあり、「性應寺」の捺印がある。禿氏師の意見には性應寺了尊の所寫なるべしとの事。內容を驗するに、『本願寺通紀』に載せてある下間家系圖と同一のものと思はれるが、立智師の見られたのは餘程の惡本と見えて、今本と比較するに、多數の誤寫誤脫あるを發見する。一例を擧げると享祿の亂に京都より加賀へ下つた實英といふ人が誰か素性が分らぬと『通紀』にいふてあるが、この大學本の系圖には、下間丹後賴立法名蓮應の子賴秀の下に「筑前、法橋、法名實惠、改―英」とある。而して此記入の正しきことは實孝師の『實如上人閑維中陰錄』（大正三年一月眞宗全書所收）に筑前實英とある にて證せられる。尤も此系圖には慶長元和比までの記入があるから、實悟師以後の加筆ある譯であるが、何處までが原本、何處からが加筆か、區別し難い。然し實悟師が實に此種の底本を作り奥書を附せられたといふ事は無稽の想像であるまいと思ふ。

二十。實悟尊老の略歷

此樣に多種の記錄を殘された實悟尊老は果して加何なる經歷の人か。系圖を見ると實悟師は蓮如上人の第二十三子で、母は治部大輔源政榮の女、法名蓮能（蓮師最後の室、反古裏書には畠山大隅守家俊の姉とあり）で、同腹の兄弟姉妹七人、兄は江州堅田の稱德寺實賢、弟としては河內久寶寺の西

證寺實順、大和飯貝の本善寺實孝、河內牧方の順興寺實從がある。童名光童丸、諱は兼了、後に兼俊と改む。假號中將。幼にして兄なる本泉寺蓮悟に養はる。八歳にして蓮師遷化。十一歳得度法名實悟。權律師を經て權少僧都に補せらる。永正の比、加賀の清澤坊に嗣住し、始めて願得寺と稱す。尙ほ系圖には前右大將忠輔の猶子、又二樂院中納言入道宗世(俗名雅康)の猶子となり、鞠道により飛鳥井家(賴孝)の免許を得て香衣を着すとあり。享祿四年加賀の錯亂に清澤坊も退轉し、それより所々漂泊、天文十九年十一月加賀衆勸氣御免の時同じく歸參。同年冬以來弟實孝の飯貝本善寺に寄寓し、弘治三年二月以來大阪殿に祇候す。永祿年中河內國茨田に土居坊を創し、次に世木坊を建て、後に古橋の坊を創して之に住し、舊號願得寺を稱した。天正四年八月八十五歳にして院家に補せられ同十二年(一説十一年)十一月廿五日九十三歳にて圓寂。墓は河內茨田の土居坊にあり。三子あり、一は女子、二は恕俊(法名顯悟)寺を繼ぎ、三は受鳳禪宗に屬す。三子の母は同じく、得生院前右大臣公藤公の女、法名公周である。以上は實悟師撰『日野一流系圖』及び眞昭僧都撰『大谷諸家分脈系譜』により て記したが、一生を通觀して實悟師は比較的に幸福でなかつた。顯誓師の『反古裏書』に「實賢ノ弟實悟ハ出生百日ノウチヨリ北國ヘ下申サレ、本泉寺蓮悟ノ養子タリ。是ハ如秀ノ母儀勝如禪尼申ウケタマヒ、如秀尼ノ御女如了ノ嫡女ニ所緣タルベキヨシ申サセ、スナハチ召具シタマフ。ソノ後カノ息女往生アリテ、右兵衞督實敎出誕アリシカバ、別ニ一寺ヲハジメ、實悟住持、清澤願得寺ト號ス、實如上人御在世ノ時ナリ」とあり。本泉寺は加賀三大寺の一で、開基宣祐は蓮師の叔父に當り、存如上人遷化の時繼嗣の大問題を決した功勞者なれば、蓮師は特に之を重ぜられ、男子なかりし故、其女如秀に配する爲に順如の弟蓮乘を以てし、蓮乘また男子なかりし故、其女如了の夫として實如の弟蓮悟を遣はされたのである。宣祐の室勝如禪尼は有爲の女性で、其夫の沒後蓮乘の病中は、本泉寺の住持格で、實如上人は常に勝如は北陸道に於ける當流再興の人であるといはれた程の人である。夫で此寺の養子となられた實悟は前途多望の身でありたが、其妻となるべき如了の息女が早世した計りでなく、蓮悟に實子の兼與法名實敎が生れた。それで實悟師は本泉寺を繼げなく、日蔭者となりて其不遇の生涯が始つたといふべきである。蓮悟師は實悟の爲に願得寺を建てたが、いはゞ本泉寺の支坊の如きもので、本願寺本寺では重きをなさぬ。『反古裏書』によるに「シカレバ一門一家數輩國々に充滿アレバ、他家ノ偏執御門弟ノ煩也。末代ニヲイテ相續ナケレバ其詮アルマジ。シカレバ御代ニヲイテアヒサダメラルベシトテ、去ヌル永正十六年蓮誓(實如の兄)所勞療治ノタメ召ノボセラレケル砌、圓如(實如の嗣)蓮淳(實如の弟)ニ仰談ゼラレ、條々サダメマシマス。是ニヨリテ實如上人御病中ニ重テ仰イダサレシハ、當分連枝一孫ハ末代一門タルベシ、次男ヨリハ末ノ一家衆一列ナルベシ。シカレバ實玄實悟實惠一代ノ後ハ其分タルベシト也。コレモ蓮淳シ井テ實惠ノ御事御懇望ニヨリテカクノゴトクオホセラル。サレバ實玄實惠ハ光善寺實玄同前ナルベシト。」此意味は、實如上人の御兄弟衆多數ありて、其子孫までが諸國に蕃殖しては、御門弟の煩となるから、連枝御一門と末々の一家衆と區別を立てんとて、御連枝の相續者一人丈は末代までも一門とする、次男以

下は末の一家衆に下すこの定めである。蓮淳師の長男兼盛（法名實淳）は近松顯證寺を繼ぎ、勿論一門たるの資格であるが、次男兼孝（法名實惠）は長島顯證寺を繼ぎ、之は末の一家衆に下すべきであるが、蓮淳師の強ての願で、其身一代丈は一門の取扱ひとなつた。蓮誓の長男蓮能は早世したので、四男兼順（法名顯誓、反古裏書作者）を繼嗣に直したから、之は一門の資格あるが、蓮誓の次男兼順の兄なる兼藝（法名實玄）は安養寺の勝興寺住持であるが、之も實惠並に特別を以て一代限り一門に列せられた。實悟師は實如上人の弟でありながら、蓮悟の次男並に取扱はれて、一代限りの一門とせられたのである。此事實を思ひ合すと、實如上人臨終の時大永五年正月廿八日、病床に於て後事を托せられた者が實圓蓮淳蓮悟蓮慶顯誓の五人であつた譯が分る。此時實圓は二十八歳であるが、實如上人の四男で證如上人の叔父であり、蓮淳は實如上人の弟で、證如上人からいへば、父方の大叔父、母方の祖父である。顯誓は二十七歳で山田光敎寺の相續人、蓮慶は四十二歳で波佐谷松岡寺の相續人、之に本泉寺蓮悟を加へて加賀の三大寺を代表せしめたのである。願得寺實悟は三十二歳、本善寺實孝は三十一歳、順興寺實從は二十八歳で、共に實如上人の弟であつても重きを爲さなんだのである。享祿四年の錯亂は加賀衆の勢力失墜に終り、三大寺は勿論の事、清澤願得寺も退轉して、實悟師も諸國流浪の身となり二十年の後天文十九年に至つて漸く勘氣御免を蒙つた　其等の事の爲か、永祿二年十二月十五日顯如上人が門跡に任ぜられたにつき、諸寺も院家の望みありて、翌三年十月に、實圓の後なる本宗寺證專、蓮淳の後なる顯證寺證淳（實淳の子）及び願證寺證惠（實惠の子）三人先づ院家に補せられ、十二月には敎行寺實誓（蓮藝の子）慈敬寺敎清（もと稱德寺實賢の子）順興寺實從、勝興寺佐計（實玄の孫）光善寺實玄、常樂寺證賢も院家となりたが、實悟師は此時も漏れて、天正四年二月八日に至り漸く院家に補せられた。此院家補任で見ると、實如御代に定められた、連枝一孫は末代まで一門、他は末々一家衆たるべき制も、實際破れたものと見える。又僧綱の如きも、兄弟中早世の人を除きて、みな權大僧都まで陞つて居られるが、實悟師は權少僧都に止つてある。此の如く權勢の方面では餘り成功ではないが、その記錄を見るに、一向不平の樣もなく、專ら遺訓を祖述するに忠なることが分かる。されば其壽は九十三歳（一說には九十二歳）といふ稀有の長命で、應仁の亂に遭ふた蓮師の御子でありて、元龜天正の戰亂石山の戰爭までを目擊せられたことは驚くの外はない。殊にその集錄が遠く今日まで殘つて、無數の讀者を稗益することは、實悟師本來の希望に副ふものであらふ。

索

引

索引を便宜左の通區分す

◎信　仰

教義、安心
相續、報謝
嗜ミ
冥加
教化
聞法
雜

◎故　實

名號、本尊、御影等
聖教、御文等
御堂內外之事
勤行、裝束等
齋、精進等
今昔對比
御堂衆、一家衆等

◎人　物

蓮師以前
蓮如上人(御隱居前)
蓮如上人(御退隱後)
實如上人
蓮師御近親
一家衆、坊主衆
女中衆
金森道西從善
慶聞坊龍立
法敬坊順誓
法專坊空善
諸弟子、同行衆
御內衆、出入衆
外護衆

索　引

◎信　仰

教義、安心

淨土門ノ四流、聖人ノ一流……13
一流ハ阿彌陀如來ノ御掟……171
彌陀チタノメト教フルハ誰ソ……172
久遠劫ヨリ久シキ佛……196
一流ハタノム一念肝要ナリ……287
御相續ノ義ハ一念ヨリ外ナシ……180
後生タスケ給ヘトタノメト云フヨリ外ナシ……284
タノム一念トイフコト……418
タノム一念ニテ往生ノ保證……181
人々心中ニアツカフトキノ仰……272
本願ノ意……4
十念ト一念……43
一心ノ意……259
信心ノ一義申立タルコト肝要ナリ……336
信心ノ意……53
五劫ノ御思案ニ同心スルトハ機法一體ノ道理ナリ……343
衆生往生成就スレド信ゼズシテ流轉セリ……15
他力信心々々トミレバ誤ナシ……187
領解ノコヽロ卽チ發願回向ナリ……10
歸命ト發願回向……52, 57
回向ノコヽロ……91
御助アリタリトハ證リノ方ニテアロシ……303
御助アリタルトアラフズルトノ喜ビ方……69
彌陀タノメバ南無阿彌陀佛ノ主ニナル……338
彌陀タノメバ南無阿彌陀佛ニマルメラルヽナリ……197
丹後ノ襟ヲタヽキテ南無阿彌陀佛ヨトノ仰……198
掬取不捨ノ意……304
光明ノ德……308
信後ノ罪障ノ事……88, 92
十惡五逆モ回心スレバ往生ス……416
坊主ハ大罪人ナリ……388
コレニアル身ハトリハヅシテモ佛ニナル……387
信心ハ佛智ナリ稱名モ他力ナリ……419
他力ニツキ諸行ト一流トノ差違……44
六賊モ念佛ヲサフベカラズ……293
安心ノ釋……7
皆々ノ言葉マデ彌陀ノイハセラルヽナリ……707
君ヲ思フハ我ヲ思フナリ……195
マイラセ心ガアロシ……232, 288
佛法ハ無我ニテ候……176, 258
無我ニツキ法敬トノ問答……703
我ハアロシト思フ人ナシ……684

極樂ニ參ラント願フ者ハ佛ニナラズ……220
佛ニナラフト思フ者ハ佛ニナルマジ……699
往生ホドノ一大事凡夫ノ計フベキニアラズ……249
凡夫往生ハ祕事祕傳デナキカ……384
普請ニツキ法敬ヘ御返事……385
土塔會ノ人ヲ見テノ仰……216
信決定ノ時日忘レタリト云人ニ對シテ……417
方便ヲワロシトイフ事……275

「神ハ濟度ノ胸ヲコガシ」文ノ釋……24
「遇穫信心遠慶宿緣」文ノ釋……49
「念聲是一」ノ釋……55
「他力ノ願行ヲ久ク身ニ持チ」文ノ釋……58
「彌陀大悲ノ胸ノ中」文ノ釋……59
「諸佛ノ證誠護念」文ノ釋……74
「諸佛三業莊嚴シテ」文ノ釋……82
「眞實信心ノ稱名」文ノ釋……89
「無生ノ生」ノ釋……90
「愛欲ノ廣海ニ沉沒シテ」文ニツキテ……95
「憶念稱名イサミアリ」文ノ釋……677
「衆生ヲシツラヒタマフ」ノ意……690

相續、報謝

信後相續ノ意……83
憶念ノ心ノ意……723
稱名ノ意義……3, 87
念佛ノ自力他力ノ差違……48, 51, 85
稱名ニヨリテ往生スルニアラズ……5
佛恩報謝ノ稱名……65
布簾ヲアゲテ南無阿彌陀佛ト仰ラル……281
蜂ヲ殺シタルトキ稱名シタル話……280
信後ノ念佛ハスベテ佛恩ナリ……279
佛恩ノ稱名退轉アルベカラズ……278
グンケノ主計鬚ソルニ切ラヌコトナシ……688
正信偈和讃ヲ佛前ニ申ス意義……60
朝夕ノ勤行往生ノタネニナルカ……84
御文ヲヨミキカスモ報謝ナリ……307
何事ヲスルモ報謝ナリ……232
佛恩ヲ嗜ムトイフ意……324
報謝ト思ヘバ何事モ苦勞ナラズ……271
佛恩アリガタクト申セ……358
惡キ事善キ事思付ルモ御恩ナリ……397
開山ノ御恩ハアラヌ所ニアリ……724
宿善ニ自他宗ノ別アルコト……335
宿善モ遲速アリ……408
宿善アリガタシト申セ……334
萬事ニツキ喜多キハ御恩ナリ……399
信心ニテナグサメ……672
信ノ上ハ獨居テ喜ブ法ナリ……252, 300
信決定ハ先、佛恩ヲ知ルハ後ナリ……104
信ジテ後ニ尊サガ知ラルヽナリ……248
善從八十マデ徒然ヲ知ラズ……296
佛ニナルト彌陀ノ御恩トハアクコトナシ……332
世間ハ如何樣ナリトモ信心ヲ喜ベ……206, 355
タウトム人ヨリハタウトガル人……352
信心ノ人ハ尊クナルモノナリ……309
想ヒタルト大ニ違フハ淨土ナリ……348
三界ニハ流轉シタレド淨土ハ始テ行ク所ナリ……45
辛勞モセデ德トル上品……327

嗜ミ

信ノ上ハ讃嘆談合油斷スベカラズ……250, 300
一念ノ安心ハ聞クタビニ珍シカルベシ……712
一ツ事ヲイツモ珍ク聞クコト……227, 228
アカヌハ君ノ仰……121
法敬九十マデ聞アキタルコトナシ……673
法性ノ尋ネ常並ナリトノ評ニツキテ……169
マキタテノ話……203
「ケフバカリオモフコヽロ」ノ御歌……694
安心ヨリ外ノ事ヲ聞カントスルハ冥加ニツキタルナリ……698
獨覺心ナルコトアサマシ……188
我身ニ知ラレテ惡キハヨク〳〵惡キナリ……294
我ガ惡キ事ハカゲニナリトモ云ヘ直スベシ……223
佛法者ノ誤ヲ見タルトキ……323
法ヲ謗ル人ヲ見テノ心得……339
佛法ハ心ニマカセズ嗜メ……672, 680
法敬心ガ御詞ノ如クナラズトノ申事……679
佛法ヲスカヌユヘ嗜マズト空善申事ノ評……370
冥見ヲオソレヨ……230
心中ヲ如來ノシロシメス樣モツベシ……179
心中ヲ同行ノ中ヘ打出テオクベシ……204
毎事心ヲ付テツヽシムベキ事……269
噬トシルトモ呑トシラスナ……175
念佛申モ名聞ト思ハレンカト嗜ムガ大義ナリ……229
足モトヲ見ネバ踏カブルベシ……290
佛法ノ上ニハ油斷アルベカラズ……199
懈怠スルトキノ心得……68
善事アレバハヤ我ヨキモノニナル……328
志申スニ我物ガホニ心得ル事……687
今生ノ事ホド佛法ヲ喜ビタキト云ニ付評……378
信ノ上ハ佛法ニ身ヲカロクモツベシ……333
善知識ノ仰ヲオロソカニ存ズル歟……205
仰ヲ守ル御弟子達ノ話……42, 390, 446, 702
佛法ト世體、法門ト庭ノ松……413
王法ヲ額ニアテ佛法ヲ内心ニ蓄ヘヨ……238

佛法ヲ主トシ世間ヲ客人トセヨ……255
當流ニハ世間機ワロシ……193
凡僧方ヲ振廻ルベカラズ……655
ヨキ事ハ世間佛法共ニ嗜ミタシ……349
ソラ事申サジト嗜ムハ隨分カタシ……349
信ノ上ハサノミ惡キ事ハアルマジキナリ……318
信ノ上ハ同行ニアラク物モ申マジキナリ……392
信心ダニアラバ仲モヨク佛法モタツベシ……138
一日一月一年ノ嗜ミ……671
信ナキ人タヨリニナラズ……194

冥加

冥加ヲ第一ニ可存事……629, 630
朝夕ハ冥加ヲ存ズヘキ事……174
御門徒トナリテハ冥加ヲ知レ……719
冥加ニカナフトイフ事……305
蓮師少ノ誤ヲモ御罰ト思召ル……636
家作衣裝等過分ナルハ御嫌ナリ……360
衣食安穩ナルモ聖人ノ御恩……8
進上物ヲ衣ノ下ニテ御拜ミ……398
水ノ一口モ如來聖人ノ御用……260
御膳モ御用ト思召サル……268, 367, 368, 634
衣裝ニツキ御恩ヲ思召サル……227, 633
朝勤ニハダヨリ御召カヘ……635
手洗ノ水冷キヲ用ヰラル……631
兼緣背摺布買得ノトキノ事……414
同下サレ物辭退ノ時ノ事……415
蓮淳腫物ヲ拭フ時ノ事……18
落チタル紙片ヲ御頂キノ事……409
燈心二筋用ヰラルヽ事……632
木ノ切片モ佛物ナリ……9
山科四壁ノヒサシ板ヲタヽキ入ラルヽ事……422
世間ニ遣フハ佛物ヲ徒ラニスルナリ……326
門徒ノ上ゲタル物ヲ直ニ他家ニ出ス事……364
無用ナル事ハ冥加ナキナリ……366

教化

教化スル人マヅ我安心ヲ決定スベシ……64
信ヲトリテ人ニモ勸メヨ……66
我物モタズシテ人ニトラスベシトノ心……190
坊主ワガ身ヲ勸化セヌハアサマシ……379
我妻子ホド不便ナルハナシ……691
三人マヅ佛ニナシタシ……700
聖教ヨミノ佛法申立タルコトナシ……192, 337
念佛ヲ寶アルク人……701
佛法ヲ弘ムルニ名聞ハ不用ナリ……29, 30
佛法者ニハ法ノ威力ニテナルナリ……337
讃嘆自他宗ノ別アル事……649
勸化簡易ヲ主トセラルヽ事……166
佛法ヲサシヨセテ云ヘトノ仰……284
法敬坊安心ノトホリ讃嘆ス……686
無用ノ事ヲサケ一心ノトコロヲ云ヘ……71
一言ニテ不審ハラシ玉フ事……272
化導當機ヲカヾミテ被遊事……166, 209
正義タリトモ繁カランコト停止ノ事……231
人中ニ聖教ヲヨムニ誹謗者アリト思ヘ……2
聖教ハ機ヲマモリテ許與フル事……19
退窟心ヲクツロゲ法ヲ御キカセノ事……214
酒ナド下サレテ後法ヲ御キカセノ事……311
人退屈ノ時法敬ニウタハセラル……424
惡人ヲモタラシ法ヲ御キカセノ事……215
雨降炎天ナド勸短クセヨトノ仰……362
世間ノ事ヲ佛法ニトリナセ……682
佛法ニハ明日ト云コトアルマジク候……200
一大事ノ急用……254
善從人ノ屍ヌガヌ間ニ法義ヲ言ヒカク……297
蓮師御一生御沙汰候ハ佛法ナリ……344
御一生ハ化導ノ爲ノミナリ……27
大阪殿建立ノ譯……116
慶聞坊ニ御訓誡……96
身ヲステヽ人ニ信ヲトラセヨ……211
佛法ノ爲ナラバ辛勞ト思ハズ……224
御亭タヽミニ上壇ヲ下ゲラルヽ事……28, 93, 642
奥州下向ノ時御辛勞ノ御話……109
人ノ信ヲ取ル外ハ何モ御意ニカナハズ……286
門徒心得直スト聞テ老ノ皺ヲ延ベバヤ……212
坊主心得直スト聞テ御喜ノ事……213
人佛法ヲ喜ベバ我ハナホ喜ブベシ……305
信ヲ得ルハ其身ノ德ナレド我モ恩ニ思フベシ……210
我ハ門徒ニモタレタリ……94
聖人一大事ノ客人……395
御門徒衆ヲ惡ク申マジキ事……394
同行ヲカタ〳〵トイフハ平外ナリ……359
御門徒衆モテナシカタノ事……396
遠國衆御モテナシノ事……639, 640
面謁者ヲ待タシメラレヌ事……641
信心アル者ハ我兄弟ナリ……347
法義ノ人御目カケラルヽ事……645
法義ノ人遠國衆座上ノ事……646, 102
人ノ信ナキコト丈ハ意ノマヽナラズ……261
無信誘法者御カナシミノ事……103
特別ナル聖人ノ御流ヲ誹ルハアサマシ……17
捨身ノ苦勞ヲ思フ人ナシ……21
信ナキ者ヲ押テ連レ來ルヨ……106

口中御煩ノ時人々ノ無信御歎ノ事……163, 208
加州ノ一揆門徒拂ノ時仰事……363
大罪人ニテモ改メナバ宥免アル事……340
下間安藝赦免ノ事……341
勘氣ノ人不可往生トハ仔細ニヨルベシ……461
邪法ノ人生害セシメラルヽ事ナシ……462, 463, 628
北國ノ門徒上洛ナキトキノ仰……393
淨祐一流ヲ申亂シタルトキノ仰……342
不孝不信邪法ノ人御キラヒノ事……643, 644, 704
善鸞御坊跡御覽ナキ事……432

聞法

無信ハ曲事ナリ……185
信ヲトラヌニヨリテ惡キナリ……285
不信ノ人ハ佛法ヲ違例ニスル……371
無信ガ本寺ノ難ニナルナリ……20
ワカキ時佛法ヲタシナメ……689
佛法ハ世間ノヒマヲカキテ聞ベシ……253
後生ハ貧富ニヨラズ……168
時節到來トイフ事……202
佛法ノ義ヲヨク〳〵人ニ問ヘ……265
水ヨク石ヲ穿ツ聽聞ヲ心ニ入ベシ……292
兄弟衆寄合談合セヨトノ仰……217
聽聞心ニ入レント思ヘド信取ラント思フ人ナシ……220
心中改メント思ヘド信取ラント思フ人ナシ……274
聖教ヨミテ物知顔ナルハアサマシ……14
聖教ヨミノ聖教ヨマズ……191
信ナクバ聖教覺テ益ナシ……61
無信者聖教ヲ持ツ喩……382
法文ヲ覺ヘテ實心アル御歎……178
極樂ハ樂ムト聞テ參ラント思フ者ハ佛ニナラズ……220
佛ニナラフト思フ者ハ佛ニナラズ……699
我ハ惡シト思ハザルハ聖人ノ御罰ナリ……684
法義ノ座ニハ心中ヲノコサズ語ルベシ……295
寄合ノ時物イハヌハ恐シキナリ……182
改悔ニ心中ヲアリノマヽ云ハヌハ無宿善ナリ……118
談合ノ時案ジタクミテ申ハ不信ノ故ナリ……302
ロヨリハ心ヲタシナムベシ……236
人ノ領解申タル時ノ仰……46, 282, 709
信治定ノ人ニマギレテ往生仕損ズベシ……283
不信ノ人信アリ氣色大名聞ナリ……277
ロニ云丈ヨリハ一向不信ト云ガマシナリ……170
信ハナクテマギレマハル……692
色キヲヲ立テヽ心中ヲ改ムベシ……301
同行善知識ニ親近スベシ……247
佛法者ニ馴近付テ損ナシ……400
惡人ヨリハ信決定ノ人ノマネヲセヨ……403
信決定ノ人ヲ見テハアノ如クナラデハト思ヘ……293
人ニマケテ信ヲトレ……258
マイラセ心ヲロシ……288
人ノ言フ事ハ當座領承スベシ……218
敵陣ノ火ヲ見テナシト思ハズ……264
善知識ノ仰ナラバ何事モ成ルベシト思ヘ……291
法ニハアラメナルガ惡シ……225
心得タト思フハ心得ヌナリ……312
不審ト一向不知トハ各別ナリ……320
法義ノチガヒト云事……183
往生ハ一人々々ノシノキナリ……270
他人ニカヽハリ無用トノ仰……420
彌陀タノメドモ念佛申サレヌト云人ノ事……726
後ナシ絲デ縫フ譬……319
佛說ニ信謗アルベキ事……251
佛法者ニハ法ノ威力ニテナルナリ……237
聖教ヲスキコシラヘタル人ノ子孫……683

雜

コノ流義在家ニテ御勸ニテ繁昌ナリ……117
一宗ノ繁昌ト云事……219
信決定ノ人一人ニテモ出來ルガ繁昌ナリ……696
神佛ニ詣シタルトキノ心得……34
御法談ヲ六人異樣ニ聞ク……674
山科參詣者三人ノ事……716
愚者三人ニ智者一人……346
エテニ法ヲ聞クコト勿レ……234
油斷無沙汰ノ評……315
我心ハ籠ニ水ヲ入ルヽ如シ……184
鳥サシ狂言ノ事……107, 445
佛法ニ脚足ナケレバ法ノ不思議ヲキク……325
後生ハ油斷ニテ仕損ズベシ……207
不斷法ヲ聞クモノハ油斷オロソカナリ……226
神佛ニモ馴レテハ信仰ナシ……6, 235
耳ナレ雀ノ御歌……273
身嗟ナレバ眠キザス……391
知レル事ヲ聞テ得アリ不知事ハナホ更ナリ……177
讃嘆ノトキカドヲ聞ケ……676
仰ヲキヽテ驚ク禪門ノ事……699
一度ノ違ガ一期ノ違ナリ……693
マコトノ信アル人ハ少シ……46, 420, 675, 709
ミナヒトノマコトノ信ハサラニナシノ御歌……685
有難キ仰ヲ信ズル人少シ……54
珍物モ食セザレバ詮ナシ……331
死スル者ハアリトモ信ズルモノハ少シ……383
御流ノコト分別シテモ聞ウル人マレナリ……681

彌陀ト諸佛ト今生後生ニフリヲケル事……12
十六日ニ善チナス世間ノ意……6
菩提所率都婆位牌ニツキテ……50
生死ハメグル相ナリトノ仰……23
疫癘ニツキテ御訓誡……40
大人小人ノ身ノ持方……32
分ニ過テ物チ贈ル人ニ心スベシ……289

◎故　實

名號本尊御影等

名號繪像木像依用ノ事……165
南無ノ無ノ字、六字ト九字十字……73
ウツボ字ノ名號ノ事……581
野村殿ノ九十字名號ノ事……472, 581
慈鎮和尚御壽像ノ事……547
開山等身ノ御影近松ヘ下サル……159
開山御影空善ニ御免許……78
蓮師御壽像並御禮ノ事……580
蓮師御壽像空善ニ御免許……97
日野唯稱院勝光公御影ノ事……546
順如實如御代本尊御影御裏書ノ事……583
燒殘リノ無碍光本尊慶聞ニ下サル……22
名號ヤケテ六體ノ佛トナル事……173
名號ヤケタル灰三尊佛トナル事……443
蓮師ホド多ク名號カキタル人ナシ……35
御齋前ニ名號遊サルヽ事……543, 582
堺ニテ夜更テ名號遊サルヽ事……330
二俣ニテ蓮悟ニ名號被遊與時ノ仰……167
聖人御影ヲ申スハ大事ナリ……201
開山ノ御影法然ノ御名號等オガマセノ事……81
蓮師臨終ニ開山ノ御影カケラル……135
本尊ハ掛ヤブレ聖教ハヨミヤブレ……164
善從ニ下サレシ掛字ニツキ仰事……585
本尊御影デ身チマクトモ往生セズ……695
實如御代名號本尊御禮錢處分ノ事……658
代々御影二幅トナル事……473

聖教御文等

讀ムベキ聖教ノ事……720
教行信證ヲ請ケル事……584
六要鈔ヲ讀ム事……585, 586
善導具書ヨム師匠斷絶ノ事……587
聖教外題御免ノ事……588
ヨロヅ聖教外題ノ事……589
聖教拜見心得……186
蓮師本典六要安心決定抄ヨミ破ラルヽ事……157, 711
安心決定抄ノ事……350, 351
經ノ上ニ物置クハ無間ノ業ナリ……421
幼者マヅ讀メ復セヨ義理ヲ辨メヨ……314
一日ニ一度ナリトモ一卷ノ經チヨメ……353
人中ニ聖教ヨム心得……2
信ナクバ聖教チヨムモ殊勝ナラズ……313
聖教ハ機ナマモリテ許與フル事……19
存覺聖教ニツキ兼緣不審ノ時御返事……256
御文製作ノ由來……158
御文ハ凡夫往生ノ鏡ナリ……276
御退隱ノ時御文ヲ實如ニ讓ラルヽ事……705
サンバ淨賢所ニテ御文ニツキ仰事……404
御文等近年詞少ニ被遊事……166
御文作リテ何トタノムカチ示シ玉フ……287
御文ノ事信ナトラセン爲ノミ……119
御詠歌モミナ法門ナリ……345
御文ノ事ヨミチガヘハ有マヅキ事……678
御文ヨマセテ聞カセラル……33, 115, 120, 134, 222, 703
堺ニテ人々ニ御文ヨミキカセラル……377
御文ヨミキカスモ報謝ナリ……307
今ノ人法義ヲ心得ルハ御文聽聞ノ故ナリ……697
御文聽聞ハ寶チ御預リスルナリ……389
御文ウカ〳〵聽聞スルカト實如御不審ノ事……717
兼緣御文ヲ申入シ時ノ仰……329
道宗御文ヲ申サレシ時ノ仰……380
文龜三兼緣夢想御文ノ事……354

御堂内外ノ事

東山大谷御坊ノ事……423, 472
山科野村御坊ノ事……423, 471
代々御影二幅トナル事……473
内陣疊マハリ敷ニツキテ……474, 475
聖人御戸タテツメラルヽ事……476
燒香ニ惡キ沈タカルヽ事……477
佛前ノ花ノ事……478
報恩講花ノ事……11
代々御影御燈明ノ事……479
修正御鏡餅ニ卓トラルヽ事……480
御堂ノ打置ヲ除カルヽ事……481
遺物ノ小袖ナド打敷ニサセラルヽ事……482
御簾カケ樣及コマル鎌ノ事……483
御堂上下檀間ノヤライノ事……484
勤ノ後南ノ座敷有ルトキノ事……485
霜月ニ椽、廊下、庭ニ筵シカルヽ事……486
正月十五日間椽廊下ニ筵シカルヽ事……487
將軍御通リニツキ葬所ノ屋ツヽマルヽ事……488

勤行裝束等

二月十五日勤行ナキニツキテ……489
同日松囃ノ催ニツキテ……490
正月二十五日御佛事……491
二十五日ノ勤マギルヽ事……492
二十五日朝ノ講式實如遊サヌ事……493, 494, 519
二十二日勤ノ事……495
二十二日早引御影堂ニテアリシ事……496
二十七日勤ノ事……497, 519
蓮如ノ時御兩親命日勤ノ事……498
實如ノ時御兩親命日勤ノ事……499, 500
野村殿持佛堂念佛行道堂ノ事……501, 502
大阪殿持佛堂敬信閣ノ事……503
前住御佛事ノ時南殿ノ亭勤ノ事……504
昔ハ六時禮讃ヲ申タル事……516, 519
勤念佛六返カヘシノ事……517
勤念佛四返カヘシノ事……518, 137
知恩講式、兩師講式ノ事……519
巧如年忌ニ法事讃行ハレタル事……520
昔ハ正信偈舌々稀ナリシ事……521
當流ノ聲明ハ小原流ナリ……522
私記ノ讀樣ノ事……523
親鸞聖人ノ讀方ノ事……374, 375
以托弘誓ノ讀方ノ事……376
和讃念佛口傳ノ事……524
勤ニツキ蓮師仰ヲ實如御物語ノ事……525
勤ノ御讃出シ樣ニツキ仰事……526, 529
讃ノ出シ樣ノ事……527
歸命ノ二字申シ樣ノ事……528
每朝ノ百返念佛ノ事……529, 530, 531
早引後ノ短念佛ノ事……533
日沒短念佛上ラレヌ事……534
葬禮ノ時念佛ノ事……535
本堂漢音經ノ事……532
本堂經始メト鐘終リトノ關係……536
勤ノ調子高カラヌ事……537
御指合ノ時勤ノ調聲人ノ事……505, 503, 533
式問ノ念佛出ス人ノ事……509
古ハ一家衆イヅレモ勤助音ノ事……538
ネフラズ助音スベシト實如仰ノ事……539
勤ノ上ノ御法談ノ事……647
讃嘆御文ニツキ實如ノ仰……648, 649
法敬慶開空善讃嘆ニツキテ……650
常樂寺三代マデ本堂勤不被參事……540
霜月勤稽古ノ事……541
御堂勤行着座ノ事……505
蓮如御往生前御堂御座ノ事……113
開山三百年忌ノ比御堂御座ノ事……474
代々御命日ノ時勤ノ座ノ事……507
實如私記遊シテ御歸リ次第……508
御堂衆燈明燒香等ニテ歸リ次第ノ事……510
御住持御堂出仕御供ノ事……614
內陣ノ座ニツキ樣ノ事……593
念珠クルベキ事……594
佛ヲ拜ム樣ノ事……595, 596
衣ノ色薄墨ノ事……105, 597, 36
裳付衣ノ袖口衣紋ノ事……598
一家衆絹及布ノ袈裟着用ノ事……599
善綽兩御代威儀ノ事……322
昔ハ衣服粗末ナリシ御話……245
蓮師無紋ノ物御嫌ノ事……266
文アル小袖ヲ座上ニ掛ラルヽ事……267
二十八日以下御命日ニ白小袖キル事……600
實如唐帽子御掛樣ノ事……601
唐帽子ニツキテ……602
實如勤行ニ皮單皮メサヌ事……603
皮タビ內陣ニ用ヰヌ事……604
シタウヅ版コンガウノ事……605
勤齋ニ扇使用ノ事……606
日沒勤行八ツ時ニナリタル事……511
逮夜ノ勤行八ツ時ニナリタル事……512
日中勤行齋前ニアル事……513
野村殿ニテ時ノ太鼓兩所ニ打事……514
番屋掟條々壁書ノ事……515
每月風呂ノ事……668
十二月スヽハキノ事……612
二十七日掃除ニ下間衆モ出ラレシ事……613

齋、精進等

客人モテナシ遊山ニ精進ノ事……542
他出道中ハ精進ナリ……543
客人ニ精進ノ儀破レタル事……544
客人ニ精進タルベキ日ノ事……545
實如ノ時四日十五日精進子細ノ事……546
蓮如ノ時法然上人命日精進ノ事……548
前住正忌前日夕モ精進ノ事……549
御兩親正忌精進ノ事……550
精進日ニ町中モ魚物不通事……551
報恩講チカキニ精進入ト申事……553
精進ホドキノ事……554
霜月二十八日精進ホドキ進上ノ事……555
實如ノ時齋ノ次第……552
齋非時ニ膳チクム事……556

齋非時ノ布施ヒカルヽ事……557, 558
人志被申事繁キ時點心バカリ被申事……559
御亭ノ座上佛法世間共ニ用キラルヽ事……560

今昔對比

報恩講ニ願人ノ勤ノ事……615
報恩講ノ齋非時ノ事……616
報恩講中ニ改悔ノ模樣……617
古ノ讃嘆ノ模樣……650
報恩講ノ間ノ事……618
報恩講ノ勤私記ノ事……619
報恩講二十七日夜ノ事……620
近年報恩講改悔ノ模樣……621
勤ハテ時分人々立サハグ事……622
古ニ異リ聖敎ヨム人ナキ事……623
近年人々振舞古ニカハル事……624
京ニ沙汰スル三箇條ノ事……625
後生ノ御免トイフ事……625, 626
オホカメ念佛ノ事……627
邦義ノ人生害サセラルヽ謂ナキ事……462, 463, 628

御堂衆、一家衆、其他

御堂衆六人供僧ノ事……590
鎰取ノ事……476, 591
堂衆心得行儀ノ事……592
讃嘆御文ニツキ實如ノ仰……648
御堂衆奉公心得ノ事……652
御堂衆ヘ鐘前ニ實如御法談ノ事……653
御堂衆殊ニ信心チヨクトルベキ事……101
不審御堂衆ニ問ヘトノ仰……651
御堂衆内儀ノ佛法ニツキテ……654
佛法ノ家ニ奉公セバ佛法御用ト心得ベキ事……361
御内人取ハヅシタラバ佛ニナラフヨトノ仰……387
御本寺ヲ聖人在世ノ如ク思召ルヽ事……321
代々善知識ハ開山ノ御名代ナリト云事……710
御本寺御住持ヲアガムベキ事……656
一家衆年頭御禮等被定事……561
一家衆得度御禮等ノ事……562, 563
加州三箇寺法名被出事……564
末々一家衆ヘ實名被出事……565
三箇寺ノ壽像御免ノ事……566
三箇寺ニテ早引私記ノ事……567, 568
新坊ニテ初月勤行ノ事……567
末寺開山ノ日勤行齋以下アル事……569
一家衆女中往生ノ時實如ヨリ御吊ノ事……570
一家衆梛ノ事……571
上洛衆御相伴ノ事……572, 640
御相伴サセラルヽ禪衣衆ノ事……573
御相伴及供御ノ事……574, 575, 576
野村御坊ニテ一家衆御扶持ノ事……577
野村ニテ座敷等便利ニ使用セシ事……578
御齋御相伴等案内ノ事……579
末々一家衆稔着用ノ事……607
法儀心得タル人ニ稔御免ノ事……608
一家衆稔着用ニ付筑前被申事……609
報恩講前絹等進上ノ事……610
霜月上洛衆ニ白小袖被下事……611
實如御時各ヘ惟被下事……660
一家衆供御ナド被申時物ヲ被下タル事……638
御内衆家被建ニ物被下タル事……637
一家衆息女下間衆勤行助音セラレシ事……665
武者小路御上ニテ人少ノ事、小殿原ノ事……662, 663
同御上ニテ御相伴ノ男女座ノ事……664
野村ニテ女房衆霜月二十八日ヲ取越コトナキ事……666
御託言申スニ一切女房衆ニ無御知事……663
三箇寺内者佛事ニ被召出事……661

◎人　物

蓮師以前

法然聖人……29, 81, 435
菩提所率都婆等ニツキ仰事……50
御衣ノ色ニツキテ……36
親鸞聖人……36, 42, 62, 81, 141, 437
御卑謙ノ御事……14
愚禿ト稱シ玉フ事……25
人師成師タラヌ御誓言……29
南無ノ無ノ字書キ方……73
御歌……75, 76
御時ノ事不審ソノマヽ置ベキ事……257
善鸞……430
高田顯智仰ヲ守ル事……42, 390
熊谷蓮生坊……546
新堤信樂坊……462
瞻西上人……304
覺如上人御歌……694
存覺上人御歌……407
大勢至ノ化身ト云事……405
注ヲ著シ玉フ御意趣……406
聖敎ニツキ兼緣不審申ス時ノ事……256

善如上人……322
綽如上人……322, 475, 476, 516, 532, 591
巧如上人……28, 423, 520
存如上人……28, 148, 151, 155, 157, 161, 244, 426, 427, 445, 516

蓮如上人（御隱居前）

御母儀ノ事……100, 425
繼母儀ニ付御困難ノ事……151, 426
御困窮ニ付慶聞ノ話……156
ヨロヅ御迷惑ノ事ドモ……241, 242
御召物ノ事……152, 241, 246
御食物ノ事……153, 156
御子樣方ノ事……154
召使ナク糧料御洗ノ事……243
召使竹若ノ事……151, 244
慶聞坊召使ハルヽ事……155
聖敎御披見ノ事……156, 157, 242, 711
金森道西隨喜ノ事……155
東國御修行ノ事……429, 430, 431
關東ニ御在國ノ譯……708
善鸞坊跡御覽ナキ事……432
奥州下向ノ砌御辛勞ノ事……109
御草鞋クイノ跡ノ事……162, 402, 429, 460
存如御往生ノ時ノ繼嗣問題……427
山門一亂金森下向ノ事……159, 428
金森ニテ危難ノ事……428
御文製作ノ由來……158
大津ヨリ山科ヘ眞影御移ノ時ノ事……159

蓮如上人（御退隱後）

延德元年八月御退隱御述懷……1, 160, 262
御隱居ノ時召使五人……161, 244
延德元年報恩講ノ次第……11
背ノ腫物ヲ莖淳拭フ事……18
燒殘リノ無碍光本尊ノ事……22
延德二年報恩講……26
法然上人御衣ノ夢想御話ノ事……36
延德四年五月出口出水御上洛……37
朴ノ木實ナルタル御歌……39
疫癘ノ御文御作ノ事……40
高田ヨリ申カヽリノ時ノ事……41
若狹二郎三郎改悔申ス事……46, 709
下間阿彌勸氣御免ナキ譯……47
明應二年正月勸修寺道德ニ御示ノ事……51
順讃御忘アリテ後ノ仰……54
同十二月五ノ不思議ノ和讃ニテ御法談……56
正信偈和讃ヲ佛前ニ勤メル譯……60
明應三年報恩講ニ空善夢想……62
明應四年報恩講……63
近松殿ニ仰事……66
同十二月歲末禮ニツキ仰事……67
明應五年正月上洛其後ノ事……70
同四月堺ヘ御下向……71
同七月御上洛……72
同八月照如得度ノ事……77
同九月開山御影空善ニ免許……78
同十一月報恩講……79
本寺ヲ惡ク思フ者ニツキ端林庵ノ話……80
明應六年四月開山御影法然御名號等拜マセ……81
同十月御壽像空善ニ免許……97
明應七年四月御不例……99, 110
同五月七日御暇乞ニ御上洛……99
御母儀ニツキテ仰事……100
同五月七日ヨリ六月朔日マデノ事……111
六月六日姉ケ小路黃門御見舞……112
御堂ノ御座ヲ直サル……113
輿ニテ御堂御參リ……114
六月十三日能鳥サシ狂言ノ事……107, 445
七月七日光闡坊上洛……108
閏十月十六日空善大阪ヘ祇候龍玄御文ヲ讀ム……115
十二月空善大阪ヘ祇候……120
明應八年二月俄ニ御上洛……123
同十八日淨賢所ニテ御文ニツキ仰事……404
同二十二日御影前御參拜……124
御往生場所造作……125
同二十五日四方土居御巡覽……126
同二十七日輿ニテ御堂御參……127
同二十九日堺ノ土居ヘ御出……128
三月朔日北殿ヘ御出……129
御遺言……130
同二日空善調進ノ花御覽……131
同三日吉野ノ花獻上、御詠歌……131
同七日御脈少シ違フ……132
御影ヘ御暇乞ニ御參……133
同九日御亭ヘ御成……134
開山御影枕頭ニカケラル……135
栗毛ノ馬御覽……136
同十七日四反返念佛御申シ……137
同十八日御兄弟中ヘ仰事……138
御脈少シ直ル……139
同十九日藥モ參ラズ御念佛ノミ……140
下間賀藝赦免ノ事……141
同二十二日開山ノ御相好ニ似ル……141
同二十三日御脈絕ヘ又直ル……142
同二十四日法敬空善御側ヘ參ル……143
同二十五日正午御往生……144
同日晚諸人ニオガマセ……145
同二十六日御葬送……146, 436

御拾骨ノ事……147
芳野ノ人殉死ノ事……438
御往生ノ奇瑞……148,436
泉涌寺長老奇瑞ヲ見ル……437
御遺言ニ付御兄弟中談合……149
御中陰三七日……150
十五歳ヨリ再興ノ志アリシ事……157,160
御一生御沙汰候ハ佛法ナリ……344
御念力ニテ佛法繁昌ナリ……229,240
志ヲ遂シ滿足ノ御述懷……160,262
三月御往生ノ豫言……438,434
御往生ニツキ或人ノ夢想……435
慶聞ニ對シ御身ニ不思議アリトノ仰……411
同賊縛比丘ノ戒文ノ事……263
空善ニ對シアカヌハ君ノ仰……121
御病中ノ仰ミナ金言ナリ……345,410
今イフ所ミナ金言ナリ……31
思殘スハ兄弟中不信ノ事バナリ……310
蓮師ハ權化ノ再誕トイフ事……62,401,437
蓮師光明ノ事……450,451
荊旦國人御教化ヲ蒙ル事……466

實如上人

……97,102,108,111,129,130,137,146,190,198,346,457,476,478,518,531,543,546,586
御相續御辭退ノ事……705
蓮師御法談後ノ御話……56
照如得度ノ時ノ事……77
永正三ヨリ當宗ノ人具足カケ始メル事……669
同細川政元河掘門徒ノ陣立ヲタヌノム事……458
大阪坊、堺坊、枚方坊ノ事……459
吉野飯貝久寶寺坊ノ事……460
赤松名馬ヲ所望スル事……718
多武峯能御覽ノ事……440
大永三年讃嘆談合夢想ノ事……300
同五年正月二十四日御病中前住御ヤネキ夢想ノ事……372
同二十五日兼譽兼緣ヘ仰事……373
聽聞肝要御遺言ノ事……714
御遺言三箇條ノ事……670
御遺骨光ヲ放ツ事……441
殉死者十三人アル事……442
本尊御影御裏書ノ事……583
御文ニ證判セラルヽ事……404
本尊名號御禮錢處分ノ事……658
御堂參錢丹後上納ノ事……659
隅々布教一家衆ヘ御タヌミノ事……715
實如御時御菜ノ次第……657
惟各ヘ下サルヽ事……660
三ケ寺内者御佛事ニ被召出事……661
本寺御住持ヲアガムベキ事……656,710
御文ウカ〳〵聽聞スルカノ御不審……717
述懷ト云事ノ解……713
佛法ハ心ニマカセズ嗜メ……680
一念ノ安心イツモ珍ク聞ケ……712
佛法ニ厭足ナケレバ法ノ不思議ヲキク……395
御門徒トナリテハ冥加ヲ知レ……719

蓮師御近親

青光院宣祐……457
繼嗣問題ヲ決ス……427
常樂臺光崇……427,540
圓光院應玄……426,427
順如上人……1,465,583
本泉寺蓮乘……131,154,427,457,580,602
蓮乘行狀ノ事……454,455
北隣坊蓮綱……146,154,560,564,566,568,574,602
光闡坊蓮誓……49,108,154,357,472,493,560
564,566,568,574,577,581
近松蓮淳……8,49,66,77,149,305,373,377,423,471,485
506,509,519,533,574,585,606,685,704
兼緣蓮悟……49,131,154,206,256,305,373,418,
427,564,566,568,574,580,585,724
二俣ニテ小名號ヲ申ス……167
堺ニテ御文ヲ申ス……329
背摺布ヲ買得ノ事……414
下サレ物ヲ辭退ノ事……415
文龜三年正月經ヨメノ夢……353
同極月二十八日御文ノ夢……354
同月二十九日信心トルベキ夢……355
大永三年正月一日雜行雜修ノ夢……356
同六年正月五日今ノ時ガヨシノ夢……357
同月六日蓮誓當流ノ肝要ヲ習フ夢……357
享祿二年十二月梅干ノ譬ノ夢……369
夢中ノ仰ミナ金言ナリ……357
教行寺蓮藝……526,577,665
宰相實賢……458,459,469,669
兼俊實悟……423,497,448,471,542,543
564,565,577,584,587,656
蓮師ニ關スル夢三條……439
右衞門督實順……460
本善寺實孝……460,587
順興寺實從……448,458,459,488,584,587
照如上人……77
圓如上人……161,459,489,509,522,532

往生ハ一人々々ノシノキ也……561, 562, 657, 668, 718
拜見スベキ聖教ノ事……270
本宗寺實圓……720
證如上人……594
上洛シ得ヌ者ニ志深キガアルベシ……479, 484, 492, 628
一家衆ヘノ御書ニ法義ノ語ナキ譯……721
……722

一家衆、坊主衆

願證寺實惠……519
常樂寺如覺……526, 540, 585
同蓮覺實乘證賢……540
受得手玄喜……565, 719
同眞桂……695
照護寺玄永……607
興行寺蓮慧……565
超勝寺實顯……607
瑞泉寺賢心……607
興正寺蓮秀……671
報恩寺蓮證……602
佛光寺經豪……14
荻生蓮智……313

女中衆

如圓禪尼……423, 426, 427
蓮祐禪尼……430
蓮能禪尼……439, 451, 458, 459
勝如尼……457
壽尊尼……455
武者小路如祐尼……561, 562, 574, 662
慶壽院鎭永尼……473
蓮乘室如秀尼……457, 570
妙秀尼……464
如宗尼、如專尼、了忍尼……570

金森道西從善

……386, 472
大谷祇候ノ事……155
大谷沒落後蓮師ヲ探リ當テタル時ノ事……299
野村殿建立ノ豫言……298
人ノ履タガヌ間ニ佛法ヲ談シカケル……297
八十マデ徒然ヲ知ラズ……296

慶聞坊龍玄

……22, 26, 27, 33, 35, 62, 96, 115, 120, 134, 145, 146, 156, 183, 222, 263, 411, 471, 505, 518, 583, 584, 648, 650
始テ召使ハルヽ時ノ事……155
蓮師御若年ノ時ノ事ヲ語ル……156
大谷坊ノ事ヲ語ル……423
御文製作ニツキ物語……158
聖教傳授ノ事……448, 584
信ハナクテマギレマハル……692

法敬坊順誓

……26, 40, 67, 74, 88, 98, 134, 141, 143, 146, 163, 172, 173, 203, 254, 281, 284, 385, 453, 472, 648, 650
法敬ハモト下部ナリシ事……646
法敬トハ兄弟ヨトノ仰……347
法敬ハ十年生延ブベシトノ仰……365, 447
烏ヲ鷺トノ仰ヲ御請ノ事……702
タウトム人ヨリタウトガル人ノ事……352
法談退屈ノ時法敬ニ詠ハセラル……424
我アシキ事ハカゲニナリトモ云ヘ直スベシ……223
法敬ハ安心ノ通リ讃嘆スル人……686
我物持ズシテ人ニ取ラスベキノ心……190
師ノ前ニテハ安心シテ讃嘆ス……317
志アル人ノ前ニテハ語ルニ力アリ……381
讃嘆ノ時ハカドヲ聞ケ……676
法敬九十マデ聞飽キナシ……673
此歳マデ聞ケド心ガ御詞ノ如クナラズ……679
油斷無沙汰ニツキテ……315
加州坊主衆ノ名聞ハ加州ヘ下シタリ……725
法敬坊尼公ノ不信ニツキテ……316

法專坊空善

……71, 78, 97, 107, 115, 120, 121, 123, 126, 131, 134, 141, 143, 146, 650
明應三年報恩講ニ夢想ノ事……62
英賀坊ヲ建立ス……100
佛法ヲスカヌ故ニ嗜マズ……370

諸弟子、同行衆

手原幸子坊吉崎表ノ評言……452
年頭ノ挨拶……453
赤尾道宗……380
一事ヲ何時モ始メタル樣ニ聞ク……228
善知識ノ仰ヲマウケスベキ事……291
一日一月一年ノ嗜ミ……671
篤志蓮師ノ光明ヲ拜ス……450
菅生願正……53
坊主ノ不審ヲ歎ク……313
尾張巧念……102
大和了妙……168
加賀了珍……134
田上了宗……271
島田唯道……446
出口光善……444
覺善……53
三河教賢、伊勢空賢……57
久寶寺法性……169
久寶寺法光……36

福田寺……11, 59, 146
淨德寺慶惠……43
勸修寺道德……51
三番淨賢……404
勝導、祐從、端ノ坊……648
越中正珍……583
誓願寺……11, 70
本遇寺……11, 146
淨惠、慶乘、淨顯、道顯、佛照寺、祐淳……11
慶善、祐專、淨了、正專、賢誓、正乘、慶善……146
奥州淨祐……342
野寺……41
三河淺井後室……87
グンケノ主計……688
若狹二郎三郎……46, 709
奥州篤信夫婦……109
百四十文志アゲル女性……467
風ノ夜縄ナフ江州入道……463
山科途上ニ小石ヲ拾フ同行……469
菜ヲ上ゲル同行……470
蓮師ニ殉死シタル同行……438

御内衆、出入衆

下間安藝蓮崇……158
勸氣御免ナキ事……47
同　御免ノ事……341
下間駿河善宗……131, 146, 450, 467, 648
我物顔ニ心得ルハ恥シ……687
法義心掛ノ事……449
下間丹後蓮應……27, 145, 146, 198, 458, 505, 561, 562, 579, 613
御堂參錢上納ノ事……659
下間上野介源四郎頼慶……458, 561, 562, 657, 660, 718
下間筑前頼秀……588
下間兵庫助源五頼次……660, 662
下間源十郎頼包……662
下間筑前玄永……609
城蒟檢校……129
竹一檢校……602, 620
福一檢校……620
醫師中井、板坂、慶道……110
醫師藤左衞門尉、誓從……131
醫師上池院……112
深草淨西寺瑞林庵……22, 78, 465
春日局……464
相阿彌……481

外護衆

慈照院義政……29
常德院義尙……363
惠林院義植……488
唯稱院日野勝光……546
姉小路黄門基綱……112
中山宣親……537
烏丸殿……474
細川勝元……38, 86
伊勢貞宗……488
細川玄蕃九郎政元……47, 465
聖德太子ノ申シ子ト云事……38, 86
河内衆ノ陣立チタノム事……458
客人モテナシ精進ヤプラルヽ事……544
播磨赤松名馬チ所望スル事……718

昭和三年六月五日印刷
昭和三年六月十日發行

蓮如上人行實
定價四圓

著作者　稻葉昌丸
發行者　大谷大學出版部
右代表者　藤岡了淳
印刷者　須磨勘兵衛
印刷所　內外出版印刷株式會社

不許複製

發行所　大谷大學出版部
京都市上京區小山上總町二〇ノ一
電話西陣一六四〇番
振替口座大阪五七六七七番

IFIN56